

【平田村】
校務 DX 計画

平田村においては、村独自で管理する校務用データサーバと、県の汎用クラウドプラットフォームである FCS（ふくしまクラウドサービス）（※）を併用して校務の効率化、ペーパーレス化を目指した校務 DX に向け取り組んでいる。

代表的な下記の実組の他、文部科学省が定める「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリスト」及び福島県教育委員会が定める「教職員働き方改革アクションプラン」等を踏まえ、継続して校務の DX 化に向けた取り組みを進める。

（※）FCS＝福島県が県全体でドメイン運用する Google Workspace（汎用クラウドプラットフォーム）

記

- 1 セキュリティを強化した校務処理システムの構築
 - ・令和 6 年 1 2 月、これまで村内小中学校各校に設置していた校務データ用のサーバをハウジングにより一括管理するシステムに切り替えた。
 - ・このことにより、学校でのサーバのメンテナンスが不要となり、機器管理における労力の軽減とセキュリティの強化がなされている。
- 2 教育情報セキュリティポリシーの策定
 - ・上記のシステム改修に合わせ、今後文部科学省が推進するパブリッククラウドを活用した校務環境等に対応するため、平田村教育情報セキュリティポリシーを令和 7 年度に策定し、策定後も国の方向性や新しい技術を参考にしながら随時見直しを行う。
- 3 学校等への発出文書削減の実組
 - ・教職員働き方アクションプランに基づき、電子メール、FCS や既存の学習ソフトの機能等のクラウドツールを活用したデータ共有を行い、クラウド利用のメリット享受と紙媒体や発出文書の削減を目指す。
 - ・文書等への押印は、クラウドツールを活用したデータ共有を推進するため原則廃止を目指す。
 - ・クラウドツールを活用したデータ共有を推進することで、校務支援システム等での不必要な手入力作業を減らす。
 - ・事務連絡に FAX を用いることについては、誤配信等のセキュリティインシデントの予防と紙媒体削減のため、原則廃止を目指す。なお、非常時における連絡の一手段としての設置を妨げるものではない。

- ・県立学校の FCS 活用を参考に、発出文書削減による事務負担の軽減等を図る。

4 次世代校務支援システムの検討

- ・本村では、令和 3 年度よりプライベートクラウド上で運用する統合型校務支援システムを利用しているが、今後文部科学省が示す「パブリッククラウド上で運用できる次世代校務支援システム」の導入を検討するための情報収集を進める。